花と昆虫のふしぎな関係

みなくち子どもの森自然館
自然クラブ 2010 資料

※ この花と昆虫の関係の図は，大きな方向をわかりやすく示したため，個々の事実や実際の花の進化とは多少とも異なるケースがあります．また，個々の段階にあてはまらなかったり，中間的あるいは両方の特徴をもつ花もあります．

スギ

もともと植物は，
花粉を“風まかせ”で運ぶ花を
もつものばかりだった＜風媒花＞
（現在もスギ，マツ，イネ科，カバノキ科…）

花粉はえいようたっぷり！
食べやすいので，花粉をエサにする
昆虫がふえてきた

花から花へ移動する昆虫を
受粉に利用してしまおう！
・甘い蜜（ミツ）を作って昆虫をよぼう！
・花を目立つ形や色にしよう！

約1億年前の白亜紀中ごろ（恐竜がいた時代），
昆虫に花粉を運んでもらう
虫媒花がふえた

色や形がうつくしい花へ！

ヒメジョオン

アスチルベ

たいらで，あさい花．
どんな昆虫でも，花粉やミツを
食べにくる

右へ進むほど，花の形がふくざつになり，
ミツのありかが，花のおくになる．，
限られた昆虫だけが，ミツにたどりつける．

キキョウ

ハルリンドウ

カップ型で，ミツがおくの方にある．
ミツにたどりつくのは，ハナバチか，
細長い口をもつチョウやハエのみ．
花粉を食べにくる昆虫はいる．

ノアザミ

多くの昆虫が花粉を利用
するが，ミツは細いツツの
おくにあって，ハナバチと
チョウがすうことができる．

ヒヨドリバナ

ユキノシタ

花びらの形がふくざつになる．
ミツはあさい表面にある．
とんでくるハチやハエがとまる．

マルハナバチ

ホタルブクロ

ツルニンジン

下向きに長いつりがね型に
なると，マルハナバチだけが
入って，ミツをすえる．

アゲハ・スズメガ

ツツジ

ヒガンバナ

ラッパ型の花で，
ミツがおくにある．ストロー型の口をもつ
アゲハやスズメガなど大型のチョウがミツをすうと，
前に飛び出たおしべ・めしべがチョウの体にさわる．
（ラッパが短く，マルハナバチがくる花もある）

ハナバチ

レンゲ

チェリーセージ

花びらの形がさらにふくざつに．
ミツはせまい通路のおくにあって．
もぐりこめるのはハナバチだけ．
（チョウは細いストローでミツをぬすむ）